

部 会 報 告

高速 1 号羽田線（東品川栈橋・鮫洲埋立部）更新工事 現場見学会

建設業部会

1. はじめに

建設業部会主催の機電技術者の若手現場見学会が2月26日に、1号羽田線（東品川栈橋・鮫洲埋立部）更新工事の現場において実施されたので紹介する。参加者は、事務局を含め25名であった。

2. 工事概要

羽田線の東品川栈橋・鮫洲埋立部は昭和38（1963）年の開通から50年以上が経過している。日々、点検・補修を行っているが、過酷な使用状況や激しい腐食環境などから重大な損傷が多数発生しており、長期的な安全性を確保する観点から、長期耐久性・維持管理性に優れた構造物の更新が必要となった。

更新区間は、品川シーサイド駅近辺の京浜運河沿い東京モノレール沿線に近接した、約1.9kmの区間である。区間の内訳として、鮫洲埋立部の約0.5kmと東品川栈橋部の約1.4km区間である（図—1）。

工 事 名：高速1号羽田線（東品川栈橋・鮫洲埋立部）更新工事

工事場所：東京都品川区東品川2丁目～同区東大井一丁目

工 期：平成27年8月6日～平成37年7月31日（120か月）

発 注 者：首都高速道路㈱

受 注 者：大林組・清水建設・三井住友建設・東亜建設工業・青木あすなろ建設・川田工業・日

本ファブテック・MMB・宮地エンジニアリング

高速1号羽田線（東品川栈橋・鮫洲埋立部）更新異工種建設工事共同企業体

・土木グループ：大林、清水、三井住友、東亜、青木あすなろ

・鋼橋グループ：川田、日本ファブテック、MMB、宮地

3. 現場見学

現場見学会の順序として、

①事務所にて工事概要の説明（図—2）

②現場事務所屋上にて鮫洲埋立部の全景確認

……………写真—1

③事務所内の展示エリアにて工事概要や各施工状況写真・模型の閲覧……………写真—2

④徒歩にて施工箇所の現場見学（約1.9km）

……………写真—3、4

⑤大井JCT作業構台箇所の現場見学 写真—5

⑥事務所にて連絡路撤去・水管橋架替えにおける話、現場質問……………写真—6

の流れで、見学会が行われた。

最初に、事務所で施工を担当するJV土木グループの山口様から工事概要について説明を受けた。高速1号羽田線の更新工事であり、現在の現場状況は迂回路の設置が終了し、上り線の造り変え中であると説明があった。工事は平成27年8月から始まり平成37年ま



図—1 現場平面図



写真—3 現場見学（橋脚 基礎部）



写真—5 大井 JCT 構台箇所見学



写真—4 現場見学（橋脚基礎 内部）



写真—6 現場見学後 質疑応答

この工事の施工状況，模型などを見た。模型により，現場位置や周辺環境の状況を分かりやすく確認することができた。

次に場内の現場見学をし，まず工事沿線の長さが長距離で延々と続いていたのと作業人員の多さから，現場のスケールの大きさに圧倒された。

橋脚基礎において複数台のサイレントパイラーで複数の箇所を施工している状況や，25tラフタークレーンも複数台違う箇所で使用されており，使用する重機の多さに驚いた。また，クレーン作業において介錯ロープの使用や監視人の配置，立入禁止エリアにカラーコーンの配置など，密集した中での作業において安全を気にかけている様子が確認できた。その他，場内全線に鉄板が敷設されていたり，制限速度や津波警報時の「避難ルート」の掲示など，安全や災害，周辺地区などに大変気を配っている印象を受けた。解体前の橋台部を見て，表面の剥離や変色の状況を確認しコンクリートの劣化が進行しているのので，今回の工事における必要性を増々感じた。

事務所に戻り鋼橋グループの小泉様より，連絡路撤去や水管橋架替えにおける作業手順や苦労話を聞き，

モノレールの線路に近接した作業で夜中1時～3時半までの短い作業時間で撤去作業を行ったということから，作業の手際さと事前の密な打合せが入念にされていて感銘を受けた。

4. おわりに

今回，若手機電技術者を対象とした現場見学会に参加することで，大変貴重で有意義な経験ができた。ほとんどが20代後半から30代前半の参加者であり，機電職員においてはじめてみる工種で非常に勉強になったという意見が多数であった。

更新工事の状況を徒歩で見て回り，施工機械や重機を間近で見てスケールの大きさに圧倒されつつ，場内の安全設備の充実や整理整頓されたきれいな現場に感心しました。

謝 辞

最後に大変お忙しい中，丁寧に案内して頂いた山口様，小泉様や現場の方々に深くお礼申し上げます。